**「与える」「あげる」の正しい敬語表現【尊敬語・謙譲語】**

まずは敬語(尊敬語・謙譲語)の基本を押さえよう

「あげる」「与える」の敬語(尊敬語・謙譲語)表現を考えるにあたって、敬語の基本をおさえておく必要があります。  
  
ここでは敬語の尊敬語・謙譲語も違いと使い方を見ていきます。

敬語の種類：尊敬語は相手に敬意を示す

敬語にも種類があります。  
  
尊敬語とは「相手の行動を敬った表現」を言います。行動の主人公は相手で、相手の物や行動に対して敬意を示した敬語です。  
  
基本的に「お～になる」「お～られる」「お～くださる」という使い方をします。

敬語の種類：謙譲語は自分をへりくだって表現

謙譲語は行動の主人公は自分で「自分をへりくだって表現」する時に使います。基本的に、「お～いただく」「お～させていただく」という表し方をします。

「与える・あげる」の敬語～尊敬語～

「与える・あげる」を尊敬語に直すと、どのような表現になるのでしょうか。  
  
敬語は使い方を間違えると、分かりにくく違和感のある表現になってしまいます。正しい敬語を確認しましょう。

尊敬語では「お与えになる」「くださる」となる

「与える・あげる」を尊敬語に直すと、「お与えになる」「与えられる」「くださる」「賜る」となります。  
  
ただ、「あげる」も「与える」のどちらも、使い方によっては不自然な表現になります。例を確認しましょう。

例）  
  
「社長が私にプレゼントをくださった。」  
  
「社長が私にプレゼントをお与えになった」

この場合「お与えになった」は不自然なので「くださった」を使います。

敬語は使い方が大事

「与える・あげる」を定型に従って、敬語にすればいいという訳ではなく、尊敬語の基本の意味「相手の行動を敬う」という、意味をおさえて「与える・あげる」の表現方法を選びましょう。

「与える・あげる」の敬語～謙譲語～

「与える・あげる」を謙譲語にすると、どう表現するべきなんでしょうか。同じ敬語でも、行動の主体が変わると言葉も変わります。

謙譲語では「差し上げる」「献上する」となる

「与える・あげる」を謙譲語にすると「差し上げる」「献上する」「進呈する」となります。謙譲語は、「自分の行動をへりくだる」敬語表現です。

例）  
  
「私は社長に本を差し上げた。」  
  
「おめでとうございます。プレゼント贈呈致します。」  
  
「私からお電話差し上げます。」

「与える・あげる」は敬語(尊敬語・謙譲語)にすると言葉が変わるので注意

与える・あげるの敬語(尊敬語・謙譲語)変換法について紹介しましたが、参考になりましたでしょうか？  
  
「与える・あげる」の敬語変換について見てきました。  
  
人に物をあげる・与えることは、ビジネスシーンでも多いです。「与える・あげる」を敬語にすると、表現が変わります。「お～になる」「お～くださる」に適用すると、不自然な表現になるので気を付けましょう。